

令和5年度 全国学力・学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の児童（第6学年）の学習・生活状況の概要についてお知らせいたします。

- 実施日時：令和5年4月18日（火）
- 参加者数：小学校7校 6年生 327名

1 学習の状況について

(1) 全体の結果

教科	国語	算数
小6年	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等

(2) 各教科の状況について

○＝平均正答率が高い問題 ●＝平均正答率が低い問題

	出題の趣旨
国語	○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる。 ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。
	●原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 ●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 ●日常よく使われる敬語を理解している。
算数	○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める。 ○正方形の意味や性質について理解している。
	●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。 ●高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。 ●百分率で表された割合について理解している。 ●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる。

(3) 学習状況の考察

①全体の状況

- ・教科に関する調査の平均正答率は、国語、算数ともに全国平均・県平均と比べて、±5%の範囲内にあり、ほぼ同等です。（文部科学省では、±5%の範囲内であれば、差はないものと判断できると示しています。）
- ・全ての教科において、無回答率の割合は、全国・県に比べて低いと言えます。
- ・記述式の問題に対しては、全国・県と比較すると無回答率が低く、問題に対して根気強く取り組もうとする姿勢が伺えます。
- ・問題形式については、国語の短答式・記述式の正答率が、全国・県を上回っています。

②各教科の状況

○国語

- ・送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使うことや、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約することは、比較的できています。
- ・国・県とともに、自分の考えをまとめて書くことの正答率が低くなっています。

- ・原因と結果など情報と情報との関係について理解することや、情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うことの正答率が低く、複数の情報を関連付けて求めることが課題となっています。

○算数

- ・図形の意味や性質について、正方形については比較的理解できているが、台形や三角形については正答率が低くなっています。
- ・割合や比例などの目的に合った数の処理の仕方を考える問題において、正答率が低くなっています。
- ・筆算について、図を基に各段階の商の意味を考えることの正答率が低くなっています。
- ・記述式の問題に対して正答率が低くなっています。

2 生活習慣や学習環境等に関する結果について（児童質問紙による意識調査）

望ましい状況○ 課題と見られる状況●

- 朝食を毎日食べていますか。
- 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
- 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。
- 学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り取り組んでいますか。
- 国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか。
- 今回の算数の（言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く）問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか。
- 新聞を読んでいますか。

■主な傾向・課題

- ・困っている人がいたら助ける、いじめは許されないなど、高い規範意識を持っている様子が伺えます。
- ・学習した内容について、他の学習場面などにつなげたり生かしたりしています。
- ・言語活動が活発に行われ、互いの関わりを通して、共に成長していこうとする姿勢が表れています。
- ・単に知識を習得するだけでなく、その知識を活用しながら主体的・対話的で深い学びに向けた話し合う力が育っています。

3 今後の取組について（学力の向上に向けて、本市において次の取り組みを推進します。）

- 国語の授業において、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする学習活動を充実していきます。また情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用できるような学習活動を行っていきます。
- 算数科の授業において、「数学的な見方・考え方」を働かせ、「数学的活動（①日常の事象から見いだした問題を解決する活動、②算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動、③数学的に表現し伝え合う言語活動）」を積極的に行います。
- 朝学習や家庭学習において、一人一台端末を活用してドリルパークやeライブラリでの反復練習を継続的に行い、基礎基本の定着を図ります。

自己肯定感や規範意識が高く、夢や希望をもって生き生きと学校生活を送っている子どもたちです。今後も、子どもたちが一層がんばっていけるよう、家庭、学校、地域で連携を深めていきましょう。

問い合わせ先
 富士吉田市教育委員会 富士吉田市立教育研修所
 TEL 0555(22)1111(内線515) 直通 0555(23)1766